

速報：モニタリングサイト 1000 陸水域調査（湖沼）水生植物調査

屏風山湖沼群 サイト

— 青森県つがる市 —

屏風山湖沼群は、青森県津軽半島西海岸の「屏風山地域」に位置する日本で有数の湖沼地帯です。海岸沿いに発達した砂丘列の凹地に多くの湖沼が点在し、砂丘の窪地に雪解け水がたまったもの、湧水によって維持される天然湖沼、灌漑目的で造られた堰き止め湖が存在します。多様かつ豊富な水生植物が生育しており、日本では2か所のみで現存が確認されている水生植物ガシャモク（絶滅危惧 IA 類）が生育する貴重な湖沼も含まれます。学術的な重要性や保全の必要性が指摘されていますが、農地開発や浚渫等による湖沼環境や生物への影響が懸念されています。



方形区（1m 四方）を用いて植生断面調査の試行を行う様子。



エゾヒルムシロの群落。
水中に沈水葉、水面に浮葉を展開して生育している様子が見られました。



屏風山湖沼群のうちの1湖沼（カスベ沼）の景観。

2018 年度の調査結果概要

屏風山湖沼群サイトは、今年度より新たに加えられたモニタリングサイトです。屏風山湖沼群に生育する水生植物（沈水、浮葉、浮遊、抽水植物）の種を把握するための植物相調査を中心に実施するとともに、試行的に植生断面調査を行いました（2018 年 8 月 3～6 日に実施）。

調査では、エゾヒルムシロ、イバラモ、マツモ、タヌキモ類といった沈水・浮遊植物を中心とする群落が見られ、エゾノミズタデ、コウホネ、ジュンサイといった浮葉・抽水植物が湖面を覆う様子も見られました。また、ガシャモク（絶滅危惧 IA 類）や車軸藻類等を確認でき、屏風山湖沼群では現在でも多くの希少種が生育し、多様性豊かな水生植物相を残している様子が見られました。しかし、湖によっては、園芸スイレンやハゴロモモといった外来種が一面に広がる様子も見られました。在来種の生育分布範囲への今後の拡大が懸念されます。

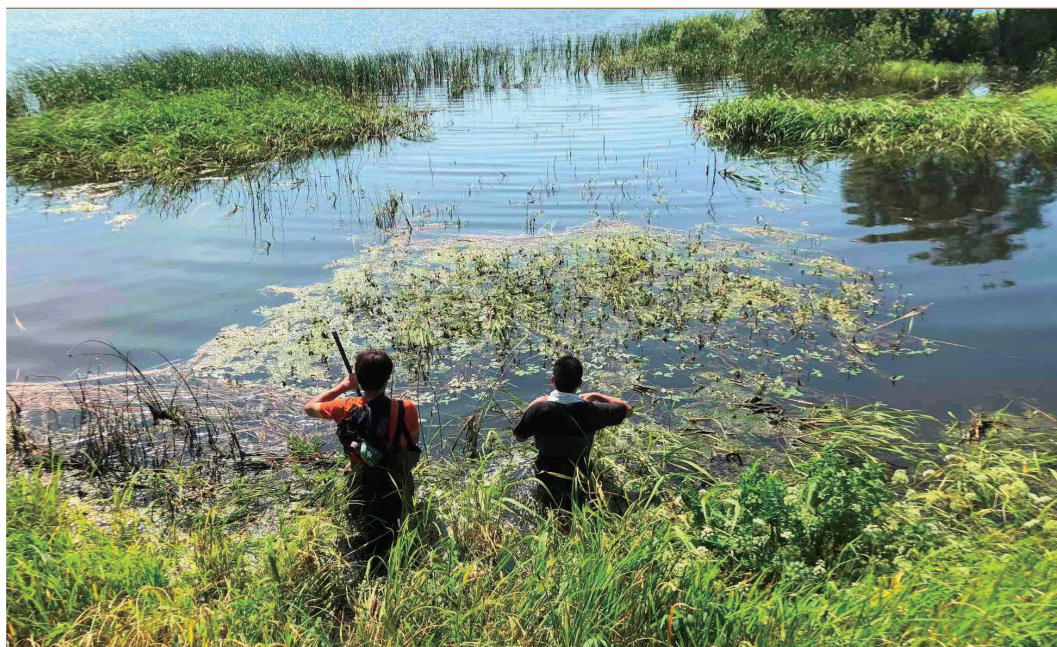
【調査者・調査協力者】山岸洋貴（弘前大学）、志賀 隆・首藤光太郎（新潟大学）、山ノ内崇志（福島大学）、石戸谷芳子（津軽植物の会）、堀内 弦（弘前市みどりの協会）、加藤 将・井藤大樹（日本国際湿地保全連合）



ガシャモク（絶滅危惧 IA 類）。
本種は、日本では2か所のみに現存する希少種です。



ボートを準備して湖内の水生植物の調査に向かう様子。



湖辺に生育する水生植物を踏査する様子。



園芸スイレン。綺麗な花を咲かせますが、湖沼に持ち込まれると、ほかの水草を追いやる強力な外来種となってしまいます。今回の調査で確認された湖沼でも、生態系への影響が懸念されます。

速報：モニタリングサイト 1000 陸水域調査（湖沼）水生植物調査

赤城大沼 サイト

－群馬県前橋市－

赤城大沼は、群馬県中部の赤城山（最高地点：黒桧岳 1,828m）の山頂域にある湖面標高 1,345m のカルデラ湖です。冬季は全面結氷し、氷上ワカサギ釣りで賑わいます。このような気候条件もあって、赤城大沼には、本州中部ではまれな北方系の水生植物であるイトイバラモやホソバヒルムシロが分布しています。日本固有種であるイトイバラモは、主に北海道と東北地方に分布し、本州では数湖沼でのみ知られている希少種（絶滅危惧Ⅱ類）です。また、ホソバヒルムシロの本州における分布は東北地方及び長野県・群馬県の山地に限定されます。



イトイバラモ（絶滅危惧Ⅱ類）の水中写真。



イトイバラモ。本種は日本の数湖沼でのみ確認されている希少種です。主に北海道や東北地方に分布している北方系の種です。



赤城大沼の湖面にて、ボートを用いて深いところの水生植物を調査する様子。

2018 年度の調査結果概要

赤城大沼サイトは、今年度より新たに加えられたモニタリングサイトです。赤城大沼に生育する水生植物（沈水、浮葉、浮遊、抽水植物）の種を把握するための植物相調査を中心に実施するとともに、試行的に植生断面調査を行いました（2018 年 8 月 29 ～ 30 日に実施）。

調査では、ホソバヒルムシロ、エビモ、クロモ、カタシャジクモといった沈水植物の群落がところどころに見られました。また、イトイバラモ（絶滅危惧Ⅱ類）も、複数の調査地点でパッチ状に生育している様子が確認できました。赤城大沼はカルデラ湖であり、急深な地形を持つため、湖辺の抽水植物帯はほとんど見られませんが、調査時の低水位により干出した湖辺に抽水形で生育するマツバイがマット状に広がっていました。今回の調査で過去に比べて水生植物相が劣化している様子は見られませんでした。一方で外来種であるコカナダモが多くの場所で見られました。コカナダモは、近隣の大型湖沼（群馬・福島県の尾瀬沼や、栃木県の湯ノ湖等）でも大繁殖が問題になっており、赤城大沼においても今後の動向が懸念されます。

【調査者・調査協力者】大森威宏(群馬県立自然史博物館)、青木雅夫(水草研究会)、山ノ内崇志(福島大学)、首藤光太郎(新潟大学)、加藤 将(日本国際湿地保全連合)



採集器を用いて水生植物を採集する様子。



干出した湖辺にマット状に生育するマツバイ。



ホソバヒルムシロ（絶滅危惧Ⅱ類）の水中写真。
本州における分布は東北地方及び長野県・群馬県の山地に限定されます。

速報：モニタリングサイト 1000 陸水域調査（湖沼）水生植物調査

東郷池 サイト

－鳥取県東伯郡－

東郷池は、鳥取県の中央部の日本海岸に位置する汽水湖です。かつては水生植物や魚介類が豊富に生育・生息し、地域住民の生活に密着した湖でした。しかし、周辺地域の都市化が進むにつれ水環境は悪化しています。水生植物は 20 種以上が記録されていましたが、近年になり在来種は減少し、外来種が侵入していることが明らかになっています。しかし、2015 年に約 50 年ぶりにセキショウモの生育が確認され、地元役場や地域住民らが中心となり、保全活動が行われています。



オオササエビモ（水面に花穂が立っている植物）とオオカナダモ（外来種、水中の濃い緑色の植物）。オオカナダモの勢いが勝っている様子が見られました。



イバラモ。東郷池ではこれまでに報告されていなかった種です。今回の調査での新発見です。

2018 年度の調査結果概要

東郷池サイトは、今年度より新たに追加されたモニタリングサイトです。東郷池に生育する水生植物（沈水、浮葉、浮遊、抽水植物）の種を把握するための植物相調査を実施しました（2018 年 9 月 3～5 日に実施）。調査では、ホザキノフサモ、オオササエビモ、セキショウモ、クロモ、エビモ、マツモ等の在来種が複数地点で確認でき、また、これまで報告されてなかったイバラモが湖内の 1 地点で新たに発見されました。一方、外来種であるオオカナダモやコカナダモも確認されました。湖内において水生植物の大きい群落は見られませんでした。流入する周辺水路では、オオササエビモやクロモ等が繁茂する様子が見られました。また、絶滅危惧Ⅱ類に指定される希少種であるミズオオバコも見られました。しかし、同時に経済的・生態的な面での被害が懸念される特定外来生物のオオフサモの生育も確認されました。オオフサモは東郷池の中への侵入は確認されていませんが、今後注意を払う必要があります。

【調査者・調査協力者】森 明寛（鳥取県生活環境部）、成岡朋弘・前田晃宏・盛山哲郎（鳥取県衛生環境研究所）、山ノ内崇志（福島大学）、永松 大（鳥取大学）、加藤 将（日本国際湿地保全連合）



外来種のオオカナダモ（左）と在来種のクロモ（右）。外見がよく似た 2 種ですが、オオカナダモのほうが大ぶりの草体を持ちます。



湖辺を踏査し、水生植物を記録する様子。



セキショウモ。東郷池では 2015 年に約 50 年ぶりに発見され、今回の調査でも湖沼のところで確認できました。



東郷池に直結する周辺水路で見られたオオフサモ（特定外来生物）。東郷池の中では確認されませんでした。今後の動向に注意する必要があります。